



芸劇リサイタル・シリーズ「VS」 Vol.6 藤田真央 × 務川慧悟

Geigeki Recital series "VS" Vol.6 FUJITA Mao × MUKAWA Keigo



FUJITA Mao

©Dovile Sermokas



MUKAWA Keigo

©Yuji Ueno

音楽作りのプロセスに共感し合う二人の「VS」

家庭的で親密な連弾と迫力ある豊かな響きの2台ピアノ。熱い注目集める若き俊英が初共演!

二人のピアニストが向かい合う「VS」。2月開催のシリーズVol.6には藤田真央と務川慧悟が出演する。24歳の藤田と29歳の務川。初共演だ。

藤田「シリーズ1回目の反田恭平さんと小林愛実さんの『VS』を客席で聴き、ヴィルトゥオーソ同士の豪華な共演に心躍らせました。一方で、各々のスタイルを極めた二人が、その力を融合させつつ音楽を完成させる難しさもあるなど感じ、もし私の番が来たら、ぜひ2台ピアノの経験豊富な務川さんと共演したいと思っていました。

務川さんを初めて聴いたのも2台ピアノ。ピアノ協奏曲を弾くコンサートでした。オーケストラ・パートを演奏している時は、こまやかに豊かな響きで音楽を支え、グリーグの独奏では、雄弁な歌心と迫力に感銘を受けました」

務川「藤田さんが全日本学生音楽コンクール小学生の部で第1位になった時から注目していました。演奏曲が三善晃の《ピアノ・ソナタ》。あの渋い曲で1位を獲ったのか!というのが最初の印象。巨大な才能を感じていたので、現在の活躍は予想どおりです。

彼の演奏はすごくナチュラル。かなり細かく練習すると聞きましたけど、努力の末の表現ではなく、ごく自然に聴こえる。魅力的です」

二人は互いの音楽を作るプロセスに共通点を見出してシンパシーを抱いている。

藤田「務川さんも私も2021年のショパン・コンクールの応援に行ったので、ワルシャワでお話ししました。その時、務川さんも私と同じ、楽譜を1小節・1音のミクロな単位で読み、意味を熟

考し、それらのパーツを構築していくタイプだとわかったのです」

務川「演奏の感情みたいなものは最後に出てくるものです。まずは和声の配置や音のバランスを数学的に考えていって、その小さな具体的なことの積み重ねが最後に大きな流れになるイメージです」

今回はオール・ピアノ・デュオ。4手連弾と2台ピアノには、それぞれ異なる面白さがある。

藤田「育った環境の違う二人が1台のピアノに向き合う連弾は、リハーサルの段階からさまざまな発見があるのが面白いですね。そして、相手の音楽を直に、間近で感じることができます。務川さんからどんな刺激を受けられるのか、今からとても楽しみです」

務川「親密な雰囲気との連弾とは対極的で、2台ピアノは非常に迫力ある響き、2台の楽器が共鳴してピアノの魅力が増大するという面白さがあります。ただ、タイミングが一瞬でもずれると、それだけで共鳴の度合いが変わってしまう。室内楽の中でも特に難しいのが2台ピアノだと思っています。今回はそれを藤田さんとできる。それに尽きます」 取材・文：宮本明（音楽ライター）



2月20日(日) 19:00開演 コンサートホール 詳細はP9へ

出演：藤田真央、務川慧悟
曲目：ドヴォルザーク/スラブ舞曲集 作品46
ラヴェル/ラ・ヴァルス
ラフマニノフ/交響的舞曲

*本稿は、お二人それぞれに取材したインタビュー内容をまとめたものです。インタビューのフルバージョンは右記をご覧ください。



芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド 第9回 演奏会

Geigeki Orchestra Academy for Wind 9th Concert



劇場外での演奏活動：サラダ音楽祭2022

「演奏家から〈音楽家〉へ」 管打楽器奏者のための アカデミープログラム

一流の講師陣によるレッスン、セルフプロデュースに必要なスキルを学ぶ「芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド」の活動をご紹介します。

東京芸術劇場が展開する、若き管打楽器奏者のためのアカデミープログラムが「芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド (GOA)」。現在23名のアカデミー生が在籍し、3年間にわたるカリキュラムを受講している(受講料は無料)。「演奏家から〈音楽家〉へ」というスローガンが掲げられているとおり、演奏技術の向上だけでなく、社会に出て音楽家として活躍するためのHOW TOを幅広く学ぶことを目的としたGOAでは、①レッスン ②キャリアアップゼミ ③コンサートの3つが活動の柱となっている。

①のレッスンでは、ミュージック・アドヴァイザーの福川伸陽(ホルン)による監修のもと、斎藤和志(フルート)、荒木奏美(オーボエ)、アレクサンドロ・ベヴェラリ(クラリネット)、佐藤友紀(トランペット)といった国内オーケストラの首席奏者をはじめ第一線の講師陣が集結。個人

レッスン、室内楽レッスン、オーケストラ・スタジオを通して表現力、アンサンブル力を磨いていく。管打楽器だけでなく、伊藤悠貴(チェロ)や小林沙羅(ソプラノ)が講師として参加しているところもユニークだ。

②のキャリアアップゼミでは、「音楽家のキャリアビジョン」「コンサートプログラムの組み立て方」「MCの話し方」「広報、Web・SNSの利用方法」「ビジネスマナー」など、音楽家として活動していくための実践的なスキルを、その道のプロが伝授する。今の時代、音楽家みずからコンサートを企画制作し、広報まで含めてセルフプロデュースするケースも多くなっており、とくにネット世代の若い音楽家には発信力が求められる。必ずしもすべて音楽家がやらなければならないわけではないが、できるに越したことはないし、思えばバッハやモーツァルトはみずか

ら作曲・演奏・広報まで手がけていたのだから、これからは昔の音楽家に近いスタイルに戻っていくのかもしれない。なお、筆者も「プログラムノートの書き方」のゼミを担当したが、演奏に直接は関わらないテーマにも関心をもち、課題意識をもって考え、積極的に発言するアカデミー生たちの姿を見て、とても頼もしく思った。

③のコンサートでは、東京芸術劇場外での依頼演奏に加え、年度末演奏会では卒団生による1人30分のショーケース、在籍1・2年目のアカデミー生と講師の特別アンサンブルによる室内楽を披露する。

若い音楽家にとって、音楽で食べていくことはますます難しい世の中になっていこう。しかし多くの仲間や先輩と交流し、視野を広げ、社会と関わることで確実にチャンスは広がる。ぜひ聴衆の皆さんもGOAの活動に注目し、彼らの才能を応援していただきたい。

文：原典子（音楽ライター／編集者）



(上) 劇場外での演奏活動：おでかけアリオス (右上) レッスン：オーケストラ・スタジオの様子 (右) 芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド パンフレット



2月10日(金) 19:00開演
卒団生によるショーケース Vol.1
2月11日(土) 19:00開演
卒団生によるショーケース Vol.2
2月12日(日) 15:00開演
室内楽演奏会
シアターイースト
詳細はP10へ

出演：2022年度アカデミー生、講師 ほか

芸劇オーケストラ・
アカデミー・
フォー・ウインド
WEBページ

